～山・湯・人～ 地域の宝でなりわい・いとなみづくり 「EIMY湯本プロジェクト」

東北大学　富田 昇　星 美喜雄　星 あき子　池上 真紀　新妻 弘明

まわそう 風のちからで 土のちからで
EIMY 湯本プロジェクト

EIMY～地域のための地域のエネルギーの活用～

福島県天栄村湯本では、昭和30年代まで持続可能な地域のエネルギーシステムが存在していましたが、その後他の地域同様に自給のしくみが崩壊していきました。また現在は過疎化・少子高齢化が進んできています。

Energy In My Yard – EIMY は、地域に存在する再生可能エネルギーを地域のために活用し、地域の豊かさの創出と低炭素社会を実現するエネルギーシステム・社会システムの概念です。この概念を実践するためにわたしたちは「東北大学湯本分室」を設置。研究やさまざまな事業を展開しています。

「ほんとうの豊かさってなんだろう？」湯本をおとずれた人に、カルチャーショックを与えたい。

緑ゆたかな山にいだかれた温泉。そこに息づく昔ながらの伝統文化と人のあたたかさ。福島県天栄村湯本地域には、都会では失われつつある自然に囲まれた暮らしと強固な地域コミュニティが残っています。

東北大学大学院環境科学研究科新妻研究室では、天栄村や地元組織「EIMY湯本地域協議会」と協働で、湯本地域に存在する再生可能エネルギーや各種資源を最大限活用し、持続可能な地域の豊かさを創出する「EIMY湯本プロジェクト」、「天栄村エコミュージアム構想策定事業」を進めています。

歴史・自然・伝統文化などの調査 学校との連携

■地域資源の掘り起こし

湯本地域には温泉、木質バイオマスなどの豊富な自然エネルギーのほか、かやぶき屋根の残る集落景観、温泉の湧く棚田、歴史ある社寺とそれにまつわる祭などの伝統、自給的に続けられてきた農業とおいしい野菜や水など、「資源」と呼べるものは多岐にわたります。それらを見つめなおし、活用の可能性を検討しています。

■地域の教育への協力

湯本小学校・中学校と連携して、「森林学習」や「地域を知る授業」への講師としての協力、各種ツアーへの参加を呼びかけ、子どもたちに地域の自然や歴史を学んでもらう機会を提供しています。



↑満願寺馬頭観音堂の調査



↑絶滅危惧植物「ミヤマツチトリモチ」

↓「インゲンの素揚げ」





←ドングリでやじろべえができた!

↓「馬尾滝」そばに残る林業遺構





「落ち葉でビンゴ!」→

エコツアーの企画・提案

■地域の魅力を伝える

湯本地域の歴史や自然を楽しみ、学ぶことができる、特色あるツアーを企画しています。「地元案内人」による解説は、この地に生きてきた人の説得力に満ちたものです。

■温泉旅館との連携

湯本地域には湯本温泉と二岐温泉という2つの温泉地があり、それぞれの旅館と協力しながら各種ツアーを企画しています。



↑地元案内人による林業遺構の解説



↑ミズナラの巨木「こぶなら」



スノーシュートレッキング↑



←「ウサギ追い」フォトハンティング

↓参加者が撮影したノウサギ



↓郷土料理づくり「打ち豆」体験



↓天栄村最大の滝「馬尾滝」



地域の知恵の学びあい なりわい・いとなみの創出

■「匠の会」

「匠の会」は、山で暮らすためのすぐれた技術をもった住民たちの組織です。炭焼きや木製品の製作、山菜やきのこについての知識を、持続可能ななりわいへつなげるための活動をしています。

■農業の振興

自給的な経営が主な湯本の農業も、従事者の高齢化などで放棄地が増えつつあります。地域の特色を生かした作物・栽培法の検討や、直販の仕組みを導入し、やりがいづくりや新たな従事者の開拓につなげます。

■地域内自給のしくみづくり

かつて地域内で自給していたものを再び自給できるようなしくみを作ることで、地域外への現金の流出を減少させる取り組みをしています。



↑旅館宿泊客にとれたての湯本野菜を販売するしくみ「とれたて!湯本高原野菜つめ合わせ」



↑湯本「匠の会」による、沢水を使った精米機「バンカリ」づくり

↓「ゆかたの着付け教室」



↓「お正月のしめ縄づくり」



自然エネルギーの利活用 自然再生・景観再生

■エネルギーの地産地消

太陽光発電や地中熱ヒートポンプ、高性能薪ストーブなどの新しい技術をバランスよく取り入れたり、昔ながらの炭焼きや沢の水流を使った精米機「バンカリ」の製作などによって、地域のためのエネルギーシステムの構築を模索しています。



↑炭焼きの火入れ

■自然や景観の再生による地域の魅力の創出

湯本集落を特徴づけるかやぶき屋根の持続的な維持システムの検討や、農業の振興による棚田景観の再生、森林資源の活用による二次林の再生などに取り組んでいます。

↓温泉の湧く棚田「湯田」



↓「ホタルの里」の野生のヘイケボタル



↓かやぶき屋根の残る湯本温泉





↑薪棚のある景観

↓古民家への薪ストーブ導入検討会



地域コミュニティの活性化

■自治組織への参加・協力

湯本分室スタッフは地元住民として青年会、婦人会のほか地域の行事などにたずさわり、地域コミュニティの活性化につとめています。

■「えんがわ喫茶」

東北大学湯本分室の愛称を「えんがわ喫茶」とし、地域住民が気軽に集まる場所として、また住民と観光客のコミュニケーションの場として提供しています。



↑「出張!えんがわ喫茶 in 大槻集落」



↓えんがわ喫茶(東北大学湯本分室)



↓歳の神(どんど焼き)の準備



↓馬頭観音祭の稚児行列



↓盆踊り



地域に研究者が入るということ

■地域に利用してもらう

地域における活動の主体はあくまでも地域住民です。さまざまな意思決定や実践的取り組みは、地域住民の手によってなされなければ持続可能とはなりません。研究者の役割は、各取り組みの中で必要なデータや学術的根拠を収集し、地域の人が利用しやすい形で提供することにあります。

また、情報収集や試行錯誤の中では、住民との良好な意思疎通が必要です。そのためには、研究以外の部分でも地域のためになることをつねに考え、行動することが大切だと思います。



↑「歳の神」での松の木かつぎ

■取り組みに対する反響

過疎化する地域をどうにかしたいという思いを共有することで、さまざまな世代、とくに30歳前後の若者が一緒に活動したいという声が上がりはじめています。

また、「景観づくりのためにうちの壁に薪を積んでほしい」であるとか、「しめ縄づくりのために今年から藁を多めにのこすことにした」、「とれたて野菜つめ合わせのために、来年は野菜を多く作ろう」など、われわれの取り組みに対する反響があらわれはじめています。

↓今年からはじめた無農薬での稲作



↓得意の写真で生計を立てられないか検討中

